

申請者が複数存在する場合は、申請者のうち一名を記入し捺印してください。この場合は、赤点線のセルを「申請者（他の申請者は別紙申請者一覧のとおり）」をプルダウンで選択してください。

なお、「事務手続きの委任」を行う場合は、代理人の住所・氏名を入力します。ここで入力した代理人が申請者も兼ねるときは「申請者兼別紙申請者一覧の者の代理人」を選択してください。また、代理人を申請者以外の者とするときは別紙申請者一覧の者の代理人」を選択してください。

東京都に提出する日付を入力してください。

申請者

住所 東京都千代田区□□町一丁目1番1号

氏名 株式会社 東京○○○

代表取締役 □□□□

代表者印

法人の場合、上側のセルに法人名称、下側のセルに代表者の役職及び氏名を入力してください。個人の場合は、下側のセルに氏名を入力してください（上側のセルは空欄としてください。）。

その他ガス削減量モニタリング計画（新規・変更）書

総量削減義務と排出量取引制度における、その他ガス削減量算定ガイドラインの規定により、次のとおりモニタリング計画の【決定】を申請します。

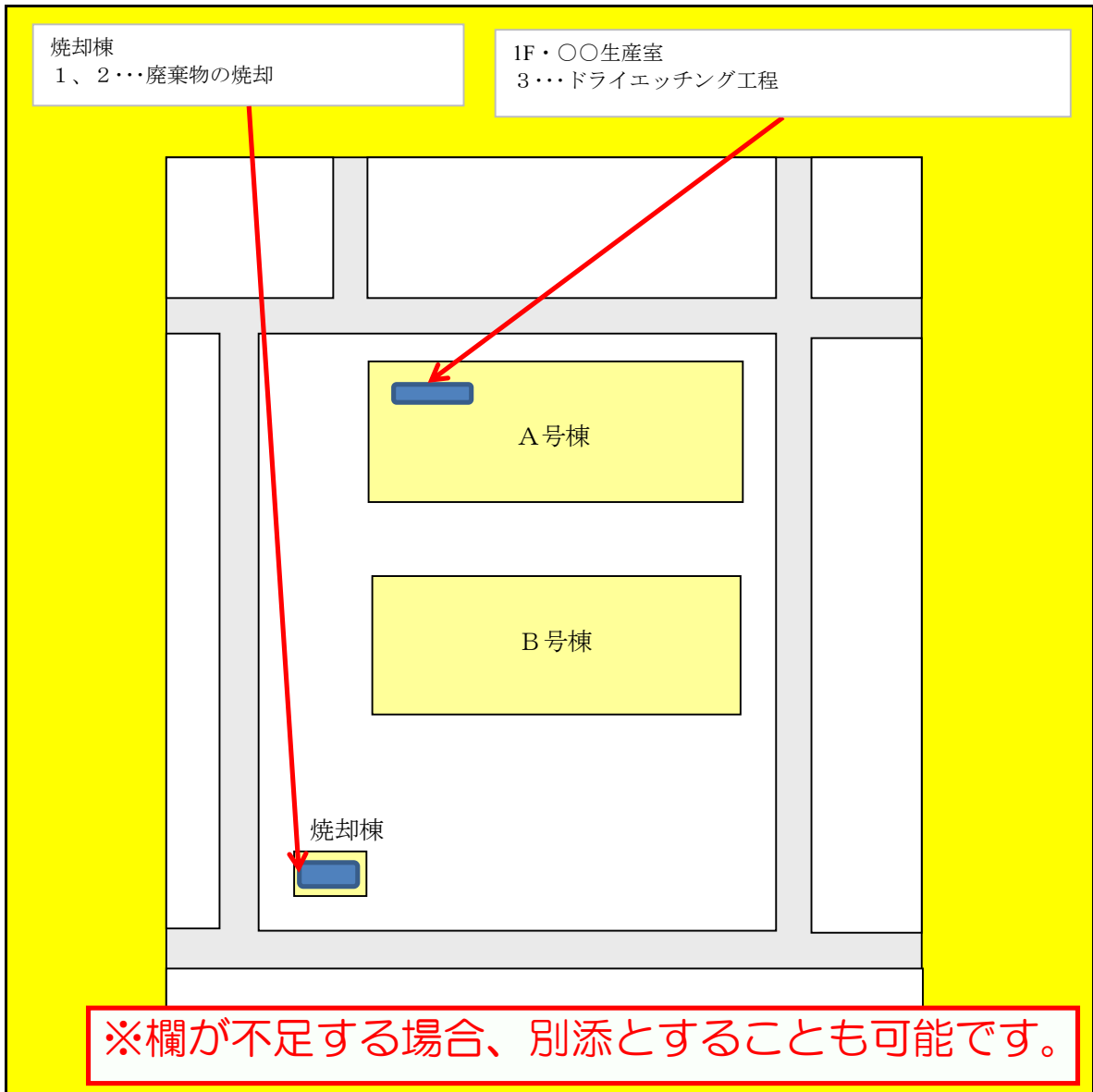
事業所の名称	○○工場	モニタリング計画の申請が「決定」「変更」いずれか該当する方を、プルダウンで選択してください。	
事業所の所在地	八王子市○○町一丁目1番1号		
指定番号	○○○○	(※変更の場合) 変更前の承認番号	環地総第 号
基準年度	2002 年度 ~ 2004 年度		
適用対象期間 (算定対象年度)	2025 年度 ~ 2029 年度		
削減活動の概要	廃棄物の焼却、加工工程のドライエッチングのHFC、PFCの利用。		
連絡先	会社名	株式会社 東京○○○	
	郵便番号	100-0001	
	住所	東京都千代田区○町一丁目×番地1号	
	所属名	総務部環境対策課	
	担当者名	大江戸 花子	
	電話番号	03-□□□□-△△△△	
	FAX番号	03-□□□□-○○○○	
	メールアドレス	hanako.oedo@xxxxxx.co.jp	
備考			
※受付欄			
<p>※この欄には、何も記入しないでください。</p>			

モニタリング計画の変更申請の場合は、東京都が通知した「その他ガス削減量モニタリング計承認通知書(D号様式)」の承認番号を記入してください。

事業所名	指定番号
〇〇工場	〇〇〇〇

1 算定事業所の詳細

(1) 事業所範囲



(2) 削減対象となる事業活動及び排出活動の状況

事業活動	排出活動	番号	排出場所
半導体の製造	半導体生成時の廃棄物の焼却	1, 2	事業所内焼却炉
半導体の製造	半導体素子等の加工工程でのドライエッチング等におけるHFC、PFCの使用	3~5	A号棟(1F〇〇生産室)

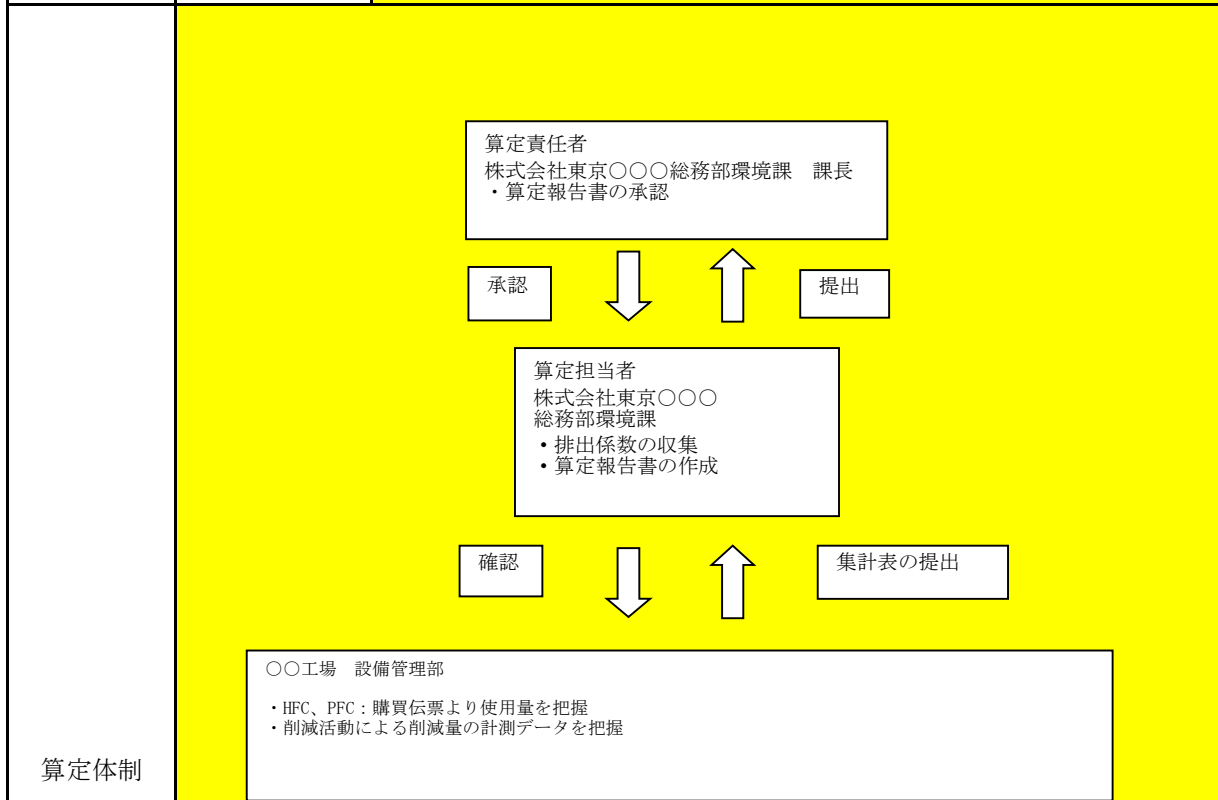
削減計画期間終了時点のモニタリング計画を変更することなく次の削減計画期間に適用する場合は、排出量に影響を与えない軽微な変更を除き、最後に有効化検証を受けたモニタリング計画書と同一の内容を記入してください。

算定範囲及びモニタリング方法の変更に伴う有効化検証を受ける場合は、最新の情報を記載してください。

事業所名	指定番号
〇〇工場	〇〇〇〇

(3) 算定体制

算定責任者	氏名	大江戸 太郎
	部署・役職	株式会社 東京〇〇〇 総務部環境課 課長
算定担当者	氏名	大江戸 花子
	部署・役職	株式会社 東京〇〇〇 総務部環境課
	電話番号	03-□□□□-△△△△
	メールアドレス	ooedo.hanako@△△△.co.jp



算定責任者：最新の情報を記載してください。
算定担当者：最新の情報を記載してください。
算定体制：下記の通り記入してください。

削減計画期間終了時点のモニタリング計画を変更することなく次の削減計画期間に適用する場合は、排出量に影響を与えない軽微な変更を除き、最後に有効化検証を受けたモニタリング計画書と同一の内容を記入してください。

算定範囲及びモニタリング方法の変更に伴う有効化検証を受ける場合は、最新の情報を記載してください。

※欄が不足する場合、別添とすることも可能です。

事業所名	指定番号
〇〇工場	〇〇〇〇

2 削減活動及び算定範囲の概要

(1) 削減活動の種類

番号	削減活動の内容	温室効果ガス排出量に与える影響
①	製造工程における、油の再利用による廃棄物(廃油)の削減	廃棄物の削減とともに廃棄物の焼却に伴い発生するその他ガス(非エネCO ₂)が削減される。ただし処理の一部外部委託により、事業所外でのこれらの排出が発生する。
②	半導体製造時のドライエッチングに用いるHFC-23の除害装置の設置	HFC-23が含まれる排気の燃焼除害により大気中へのHFC-23の排出量が減少する。

(2) 算定対象排出活動

<適用対象期間(算定対象年度)>

番号	排出活動	温室効果ガスの種類	削減活動による排出量の増減	増減の原因となる削減活動番号	増減の理由
1	廃棄物(廃油)の焼却(事業所内)	CO ₂	減	①	廃棄物の削減と外部委託により、焼却量を削減した。
2	廃棄物(廃油)の焼却(事業所外)	CO ₂	増	①	廃棄物の処理を一部外部委託したため、排出量が増加した。
3	半導体素子等の加工工程でのドライエッチング等におけるHFCの使用	HFC	減	②	除害装置の設置により大気中へのHFC-23の排出量が減少した。

ここで入力した番号ごとに、様式「その5」を作成してください。

<基準年度>

番号	排出活動	温室効果ガスの種類	当該年度との差異	差異がある場合の理由
1	廃棄物(廃油)の焼却(事業所内)	CO ₂	無	
3	半導体素子等の加工工程でのドライエッチング等におけるHFCの使用	HFC	無	

ここで入力した番号ごとに、様式「その6」を作成してください。

(3) 算定範囲(プロセス図)

※施設・設備と削減活動、排出活動の実施位置の関係及び排出のプロセスがわかるように図等を用いて記載してください。
 なお、欄が不足する場合、別添とすることも可能です。

削減計画期間終了時点のモニタリング計画を変更することなく次の削減計画期間に適用する場合は、排出量に影響を与えない軽微な変更を除き、最後に有効化検証を受けたモニタリング計画書と同一の内容を記入してください。

算定範囲及びモニタリング方法の変更に伴う有効化検証を受ける場合は、最新の情報を記載してください。

事業所名	指定番号
〇〇工場	〇〇〇〇

3 モニタリング方法

<基準年度>

(注) 排出活動ごとに本用紙

**排出活動「番号3」の記入例です。
※ここでは提示していない「番号1、2」の排出活動も、それぞれ同様に作成してください。**

番号	排出活動	ガス種
3	半導体素子等の加工工程でのドライエッチング等におけるHFCの使用	HFC

「その4」で入力した番号ごとに、複数作成してください。

(1) 算定方法

番号	適用範囲	算定手法	算定式	有効けた数	把握するデータ項目			
					a	b	c	d
3-1	半導体製造時のドライエッチング	排出係数による計算	$a \times b - c$	2	使用量(tHFC)	排出量原単位(tHFC/tHFC)	回収・適正処理量(tHFC)	

<上記の算定方法の採用理由>

排出活動の種別から、その他ガス削減量算定ガイドラインに示す方法を採用した。

このページは、基準年度当時の情報を記載してください。

(2) データの把握方法

データ項目	測定・設定方法 (計器、証票、出典、サンプリング方法、測定頻度、測定点等)	データ記録・管理方法	有効けた数
3-1-a	使用量=購入量+期首在庫量-期末在庫量として購入量は購入伝票で、在庫量は在庫管理記録により把握する。	購入伝票は経理部門で保管し、購入量データを抽出して環境部門で記録。また在庫管理記録は購買部門で管理し、そのデータを環境部門で記録。	2
3-1-b	温対法に基づく「算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧」の係数を採用	算定時においては、公表している最新値を確認する。	2
3-1-c	HFCの回収・処理業者から提供を受けた回収記録から把握する。	回収記録を環境部門で保管し、電子データとして記録	2
	<p>「排出係数」及び「モデルの設定方法」について、次の文書以外のものを採用する場合は、科学的妥当性を確認するための資料を添付してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際的な公的文書（IPCCガイドライン等） ・環境省・経済産業省で公表している公的文書（温対法の関連資料等） ・東京都が示す方法（各種ガイドライン、指針等） 		

<上記のデータ把握方法の採用理由>

使用量についてはラインへの直接投入量は連続測定していないため、購入量と在庫量から求めることとした。購入量は取引において会計データと連動しているため信頼性が高いと判断している。排出係数は、環境省・経済産業省で公表している排出係数の最新値を採用した。また回収・適正処理量は回収・破壊業者から回収記録の報告を受けておりこれに基づき取引を行っているため回収量として信頼性があると判断した。

事業所名	指定番号
〇〇工場	〇〇〇〇

4 モニタリング方法

<算定対象年度>

(注) 排出活動ごとに本用紙

**排出活動「番号3」の記入例です。
※ここでは提示していない「番号1、2」の排出活動も、それぞれ同様に作成してください。**

番号	排出活動	ガス種
3	半導体素子等の加工工程でのドライエッチング等におけるHFCの使用	HFC

「その4」で入力した番号ごとに、複数作成してください。

(1) 算定方法

番号	適用範囲	算定手法	算定式	有効 けた数	把握するデータ項目			
					a	b	c	d
3-1	半導体製造時のドライエッチング	排出係数による計算	$a \times b - c$	2	使用量(tHFC)	排出量原単位 (tHFC/tHFC)	回収・適正処理量(tHFC)	

<上記の算定方法の採用理由>

排出活動の種別から、その他ガス削減量算定ガイドラインに示す方法を採用した。

削減計画期間終了時点のモニタリング計画を変更することなく次の削減計画期間に適用する場合は、排出量に影響を与えない軽微な変更を除き、最後に有効化検証を受けたモニタリング計画書と同一の内容を記入してください。

算定範囲及びモニタリング方法の変更に伴う有効化検証を受ける場合は、最新の情報を記載してください。

3-1-a	使用量=購入量+期首在庫量-期末在庫量として購入量は購入伝票で、在庫量は在庫管理記録により把握する。	購入伝票は経理部門で保管し、購入量データを抽出して環境部門で記録。また在庫管理記録は購買部門で管理し、そのデータを環境部門で記録。	2
3-1-b	温対法に基づく「算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧」の係数を採用	算定時においては、公表している最新値を確認する。	2
3-1-c	HFCの回収・処理業者から提供を受けた回収記録から把握する。	回収記録を環境部門で保管し、電子データとして記録	2
	<p>「排出係数」及び「モデルの設定方法」について、次の文書以外のものを採用する場合は、科学的妥当性を確認するための資料を添付してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際的な公的文書（IPCCガイドライン等） ・環境省・経済産業省で公表している公的文書（温対法の関連資料等） ・東京都が示す方法（各種ガイドライン、指針等） 		

<上記のデータ把握方法の採用理由>

使用量についてはラインへの直接投入量は連続測定していないため、購入量と在庫量から求めることとした。購入量は取引において会計データと連動しているため信頼性が高いと判断している。排出係数は、環境省・経済産業省で公表している排出係数の最新値を採用した。また回収・適正処理量は回収・破壊業者から回収記録の報告を受けておりこれに基づき取引を行っているため回収量として信頼性があると判断した。